

令和2年度
第3分科会 研究実践報告

東京都立城南特別支援学校

01 昨年度の研究

▶ 言語能力の育成に必要な知識の習得

学習環境（物理的環境）／教員の関わり方（人的環境）／児童・生徒の理解レベルと授業内容の適合度を評価し、適切な言語環境について知識を習得。

▶ 言語発達に関する客観的な実態把握方法の検討

言語・コミュニケーション発達スケール（LCスケール）を活用し、言語理解・表出に関するおおまかな実態を共通理解でき、本校でも有効活用できることを確認。

▶ 実態に即した授業計画・評価・改善方法の検討

客観的な実態リストの開発により、児童・生徒の課題が可視化でき、適切な授業計画や評価に活用できることを確認。

02 研究構想

研究の目的(仮説)

教員が、知的障害のある児童・生徒の言語活動に関する指導技術を身に付け、発達段階に応じた指導を行うことで、児童・生徒の言語能力を伸長できる。

令和2年度の到達目標

- 言語発達に障害のある児童・生徒を適切に捉える視点の習得。
(発達の最近接領域や、学習が進む条件を把握する力)
- 言語発達アセスメント (LCスケール) 結果を生かした授業づくり。
- 言語活動を充実させる指導内容・単元案の検討。

02 研究構想



取組1 検査結果の検証

- OLCスケール・LCSAの実施。
- 記録（結果）の読み取り。
- 授業への生かし方の検討。

取組2 指導内容・単元の開発・検証

- 検査結果を基にした指導内容・単元案の作成。
- 指導場面の分析、改善策の検証。
- 次年度に向けた単元等の検討。

03 実践内容

- ▶ LCスケール・LCSAの実施。
 - ▶ 授業者による検査結果（検査の記録）の読み取り。
- 
- ▶ 研究協議会において実態の読み取りに関する意見交換。
 - ▶ 外部専門家（助言者）からのアドバイス。
 - ▶ それらを基に言語活動を充実させる単元案の作成。
- 
- ▶ 研究授業。
 - ▶ 研究授業のビデオ検証。
 - ▶ 研究協議会において指導内容の改善に関する意見交換。

04 実践1(小学部低学年)

ケース3(小1女子児童)のLCスケール結果より

「<コミュニケーション>見立て」において、指示内容を理解し、具体物を使って見立て遊びができつつある。

「<コミュニケーション>ジェスチャーの命名・理解」において、ジェスチャーが表すものは理解しているが、名詞等の言葉で表すことに難しさがあった。



(教員の思い)

言葉を模倣する経験を積むことで、語彙を増やし、自分から表出する力を伸ばしてほしい

単元案 『もりのおふろ』(再現活動)

単元の見目標

- ・身体部位の名称を知る。
- ・言葉のもつ音やリズムに親しむ。
- ・再現活動を通して、言葉で友達と関わる経験を積む。

04 実践1(小学部低学年)

言語活動を充実させる工夫

- 言葉を模倣しやすいよう、同じ言葉が繰り返し出る教材を選定。
- 絵本の内容と連動して、身体部位の名称を覚えることができるよう活動を設定。
- 言葉のリズムや発声の面白さを味わう場面を設定。
- 「おねがい」「いいよ」などの簡単な言葉で、友達とのやり取りに発展していく。



成果と課題

- 友達との関わりが深まる単元構成ができている。
- 楽しい活動の中で、身体の部位や「ひじ」などの難しい部位の学習にもつながった。
- LCスケールの検査記録をよく読み取り、少し上のモデル課題を適切に選択し、活動に取り入れられた。

04 実践2(小学部高学年)

ケース4(小5女子児童)のLCスケール結果より

「<言語理解>絵の呼称」において、絵の名称を言葉で表すこと、
「<コミュニケーション>ジェスチャーの命名」において、ジェスチャーの意味を
言葉で表すことに難しさがあった。



(教員の思い)
言葉と併せて手話やジェスチャーを用いて、伝えたいことを
自分から表出する力を伸ばしてほしい。

単元案 『くらべよう』(間違い探し)

単元の見目標

- ・ 2つのイラストを見比べ、違いに気付く。
- ・ 質問に対して、言葉や身振りで答える。

04 実践2(小学部高学年)

言語活動を充実させる工夫

- 日常生活で使用する言葉を中心に扱う。
- 児童が表出している身振りに、意味を付随させる。
- 手話が定着するまで、手話に合わせてそのイラストを提示する。
- 発語が難しい場合、一文字目が言えたり、身振りで表現できたりしたら、評価する。



成果と課題

- LCスケールの検査記録より、児童の発達の最近接領域の課題を選択し、活動に取り入れられた。
- 日常生活でも「手話」「マカトンサイン」「身振り」は混在しているため、授業でも一律に「手話」とせず、どの言葉にどのサインを使うのか統一して指導すると、児童の学習が進む。

04 実践3(中学部)

ケース1(中3男子生徒)のLCSA結果より

「<コミュニケーション>状況画の理解」において、絵の内容を言葉で説明すること
「<言語理解>文章の理解」において、聞き取った文章を、時系列に沿って絵を指差すことに難しさがあった。



生徒が言いたいことを整理し、順序だてて話したり、していることの手順や理由を、説明できるようになってほしい。

単元案 『説明しよう』(文章構成)

単元の目標

- ・絵を見て、人物や動物の動作や行動を文章として表し、発想力や表現力を高める。
- ・語彙の拡充や助詞を適切に使えるようになる。
- ・自分の考えや意図を相手に分かりやすく伝える。
- ・相手からの意見を受け止め、話をつなげるなど、人と伝え合う力を養う。

04 実践3(中学部)

言語活動を充実させる工夫

- 生徒の実態に合わせ、目に見える動き、動作を中心とした状況絵の提示で文章構成につなげる。
- 授業の展開を①～③の流れにする。
 - ①状況絵について、生徒が言語で表現する。
 - ②教員が状況絵の説明を行う。→ **生徒の再生モデルになる**
 - ③再度、生徒が表現する。 → **教員のモデルを再生する**

成果と課題

- 友達の発言を取り入れて自分の発言をするなど、相互学習につながる単元構成ができています。
- 単語表を提示することで生徒が自ら単語を選択し、その単語を主体的に活用することにつながった。
- 基本文型を積み重ね学習した後、主語を入れ替えるゲーム的な学習につなげると学習が深まる。

04 実践4(高等部)

ケース2(高1男子生徒)のLCスケール結果より

「＜コミュニケーション＞状況画の理解」など図版の課題は、理解や弁別に難しさがあった。
「＜言語表出＞推論」など文章を聞いて答えられる課題では、2語文で表すことができた。



3語文を正しく理解し、日常生活場面でも適切に表現できるようにしてほしい。

単元案 『三語文で表現しよう』(文章構成)

単元の目標

- ・ 格助詞を適切に使用する。
- ・ 二語文、三語文を用いて周りの物を説明をする。

04 実践4(高等部)

言語活動を充実させる工夫

- LCスケールの検査記録より、絵の内容理解に困難さがあることが分かったため、身の周りの人や物などの立体的な具体物を用いて、二語文や三語文の定着を図る。
- 日常生活で起こる場面を想定した内容にする。
- 主語と目的語が入れ替わっても、言葉が成り立つよう指導する。



成果と課題

- 日常生活で耳にする言葉を使い、生徒自身が言葉で説明することにつながる授業内容になった。
- 検査記録より、格助詞は発達の最近接領域の課題とは判断しにくい。まず、構文を理解できるように指導すると学習が進む。
- LCスケールの検査記録を再度見直し、言語面の「表出」と「理解」を分けて授業内容や課題に落とし込むと学習が深まる。

05 研究成果

取組1 検査結果の検証

4事例のLCスケール検査記録より、児童・生徒の発達最近接領域の課題の読み取り方など、実態把握につながる視点を習得できた。

取組2 指導内容・単元の開発・検証

LCスケール検査記録を活用し、各学部で言語活動につながる単元計画をたて、研究協議会において検証できた。

06 次年度に向けて

- ▶ LCスケール検査記録の適切な読み取り方について習熟
- ▶ 言語発達を進める単元計画の提案（授業モデルの検討）
- ▶ 児童・生徒の様子の変化の追究